

(無断転載を禁ず)

受験番号： _____
 生年月日： _____ . _____ . _____
 氏 名： _____

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級商業簿記①

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第1問(20点)

次の取引について仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は下記の中から最も適切なものを選択すること。

現 金 当 座 預 金 売 掛 金 仮 払 消 費 税 建 物 備 品
 土 地 リ ー ス 資 産 繰 延 税 金 資 産 買 掛 金 仮 受 消 費 税 未 払 消 費 税
 リ ー ス 債 務 繰 延 税 金 負 債 資 本 金 繰 越 利 益 剰 余 金 非 支 配 株 主 持 分 売 上
 固定資産売却益 租 税 公 課 修 繕 費 支 払 利 息 法人税等調整額 非支配株主に帰属する当期純利益

1. 決算にあたり、商品売買取引に係る消費税の納付額を計算し確定した。なお、売上取引に係る消費税の仮受分は¥335,000であり、仕入取引に係る消費税の仮払分は¥234,000である。また、消費税の会計処理は税抜方式を採用しており、税率は10%とする。
2. 建物について改修工事を行い、工事代金の¥2,700,000は小切手を振出して支払った。なお、支出額のうち60%は建物の価値を増加させるための改良分である。
3. 決算において、売掛金期末残高に対して貸倒引当金を設定したが、¥40,000は税務上、損金算入が認められなかったため、税効果会計に関する仕訳を行う。なお、法人税等の実効税率は30%とする。
4. P社(S社株式を80%所有)は、当期にS社に対して取得原価¥1,000,000の土地を¥1,500,000で売却した。連結財務諸表の作成にあたり、未実現利益の消去を行う。
5. 当期首にコピー機のリース契約(ファイナンス・リース取引、年間リース料:¥80,000の後払い、リース期間:5年)を締結した。リース料総額に含まれる利息相当額は¥40,000であり、利子抜き法によっている。本日第1回目のリース料を現金にて支払った。利息相当額は定額法により配分すること。

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

第2問(15点)

当社が所有する車両運搬具に関する以下の資料に基づき、1.～4.に答えなさい。なお、決算は年1回12月31日とし、減価償却費は月割計算による。

取 得 日 : X4年3月1日 取 得 原 価 : ¥4,500,000 残 存 価 額 : ゼロ 耐 用 年 数 : 8年
 定率法償却率 : 0.25 X4年度実際走行距離 : 15,000km 総走行可能距離 : 100,000km

1. 定額法を採用した場合のX4年12月31日における減価償却費を答えなさい。
2. 定率法を採用した場合のX4年12月31日における減価償却費を答えなさい。
3. 生産高比例法を採用した場合のX4年12月31日における減価償却費を答えなさい。
4. X5年4月30日に上記車両運搬具を¥3,400,000で売却した場合の固定資産売却損益を答えなさい。なお、減価償却費の計算は定率法を採用することとする。

1	2	3	4
¥	¥	¥	¥ ()

(注) ()には損または益を記入すること。

(無断転載を禁ず)

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

受験番号： _____

生年月日： _____

氏 名： _____

第117回簿記能力検定試験

2級商業簿記②

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第3問 (20点)

大原商事株式会社(以下、当社とする)が取引銀行より取寄せた決算日における銀行残高証明書残高を、当社の当座預金勘定残高と比較したところ、金額が一致していなかった。よって、下記の資料に基づいて各設問に答えなさい。

設問1 企業残高基準法による銀行勘定調整表を作成しなさい。なお、【 】には不一致原因に関する資料の番号を記入すること。

設問2 当社の当座預金勘定の記入を行いなさい。なお、相手科目と金額のみでよい。

資料：不一致原因の内容

- 3月31日に、現金¥30,000を預入れたが、銀行では翌日入金となっていた。
- 仕入先長野商店に対する買掛金の支払いとして、小切手¥12,000を振出したが、未取付であった。
- 通信費¥22,000が当座預金口座から引落とされていたが、当社に未通知であった。
- 得意先愛知商店に対する売掛金¥67,000が当座預金口座に振込まれていたが、当社に未通知であった。

設問1

銀行勘定調整表

X5年3月31日

(単位：円)

当座預金勘定残高	750,000
加算：	
【 】 ()	
【 】 ()	()
	()
減算：	
【 】 ()	
【 】 ()	()
銀行残高証明書残高	()

設問2

当座預金

残 高	750,000	()	()
()	()		

第4問 (15点)

当社が所有する売買目的有価証券(社債)に関する資料に基づいて、各設問に答えなさい。当期はX4年12月31日を決算日とする1年であり、利息の計算は便宜上月割計算で行うこととする。

購入日 X4年2月1日 額面総額 ¥2,000,000 額 面 @¥100 購入価額 @¥98.5 購入口数 20,000口
満期日 X5年3月31日 利 率 年3% 利 払 日 3月及び9月末日

設問1 次の各金額を答えなさい。

- X4年2月1日(購入日)に支払う端数利息の金額
- X4年3月31日(利払日)に受取る利息の金額
- X4年9月30日(利払日)に受取る利息の金額
- X4年12月31日(決算日)に計上される未収有価証券利息の金額
- 損益計算書に計上される有価証券利息の金額

設問2 有価証券利息勘定の記入を行いなさい。なお、利息の受払いは現金預金にて行ったものとし、損益勘定への振替えまで行うこと。

設問1

1	2	3	4	5
¥	¥	¥	¥	¥

設問2

有価証券利息

()	()	()	()	()
()	()	()	()	()
		()	()	()
	()		()	()

受験番号： _____
 生年月日： _____ . _____ . _____
 氏 名： _____

第117回簿記能力検定試験

2級商業簿記③

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第5問 (30点)

次の資料に基づいて、(1)貸借対照表を作成し、(2)損益計算書に計上される各金額を求めなさい(決算日：年1回3月31日)。

I. 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

X5年3月31日

(単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
現金	759,840	支払手形	1,029,600
当座預金	660,000	買掛金	660,000
受取手形	942,000	長期借入金	600,000
売掛金	480,000	貸倒引当金	4,140
売買目的有価証券	264,000	建物減価償却累計額	900,000
繰越商品	258,000	備品減価償却累計額	90,000
短期貸付金	480,000	資本金	3,000,000
建物	3,000,000	資本準備金	540,000
備品	360,000	利益準備金	336,000
土地	2,400,000	新築積立金	360,000
満期保有目的債券	490,000	繰越利益剰余金	608,500
仕入	3,360,000	売上	5,580,000
販売管理費	240,000	受取利息	12,000
保険料	32,640	受取配当金	6,240
支払利息	15,000	有価証券利息	15,000
	13,741,480		13,741,480

II. 決算整理事項等

- 現金預金について調査したところ次の事項が判明した。
 - 得意先より掛代金¥15,000につき、当座預金口座に振込まれていたが未処理であった。
 - 仕入先の掛代金¥340,000につき、小切手を振出して支払っていたが未処理であった。
 - 販売費¥32,760を現金で支払っていたが未処理であった。
- 期末商品棚卸高は次のとおりである。棚卸減耗損、収益性の低下による評価損は売上原価に算入する。
 帳簿棚卸数量 1,440個 原価 @¥200 実地棚卸数量 1,380個 正味売却価額 @¥170
- 受取手形と売掛金の期末残高に対し2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 売買目的有価証券の内訳は下記のとおりであり、時価で評価する。
 甲社株式 帳簿価額 ¥120,000 時価 ¥130,000
 乙社株式 帳簿価額 ¥144,000 時価 ¥136,000
- 満期保有目的債券は、X4年4月1日に社債5,000口(期間5年、利率年3%、利払日は年2回9月及び3月末日)を発行と同時に額面@¥100につき@¥98で買入れたものである。取得価額と額面金額との差額につき、償却原価法(定額法)を適用し、月割計算によって処理する。
- 固定資産について下記の方法により減価償却を行う。なお、残存価額はゼロとする。
 建物 定額法 耐用年数 40年
 備品 200%定率法 耐用年数 8年
- 未収利息を¥2,400計上する。
- 保険料はX4年7月1日に向こう1年分を支払ったものである。
- 法人税、住民税及び事業税は¥527,250であった。

(無断転載を禁ず)

受験番号: _____

生年月日: _____

氏名: _____

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

第117回簿記能力検定試験

2級商業簿記④

試験会場	得点欄

制限時間：1時間30分

2022年6月施行

第5問 (30点)

(1) 貸借対照表

貸借対照表

X5年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部	負 債 の 部
I 流動資産	I 流動負債
現金預金 ()	支払手形 ()
受取手形 ()	買掛金 ()
貸倒引当金 () ()	未払法人税等 ()
売掛金 ()	流動負債合計 ()
貸倒引当金 () ()	II 固定負債
有価証券 ()	長期借入金 ()
商品 ()	固定負債合計 ()
短期貸付金 ()	負債合計 ()
未収収益 ()	純資産の部
前払費用 ()	I 株主資本
流動資産合計 ()	1. 資本金 ()
II 固定資産	2. 資本剰余金
1. 有形固定資産	(1) 資本準備金 ()
建物 ()	資本剰余金合計 ()
減価償却累計額 () ()	3. 利益剰余金
備品 ()	(1) 利益準備金 ()
減価償却累計額 () ()	(2) その他利益剰余金
土地 ()	新築積立金 ()
有形固定資産合計 ()	繰越利益剰余金 ()
2. 投資その他の資産	利益剰余金合計 ()
投資有価証券 ()	純資産合計 ()
投資その他の資産合計 ()	
固定資産合計 ()	
資産合計 ()	負債・純資産合計 ()

(2) 損益計算書に計上される各金額

売上原価	貸倒引当金繰入	保険料	受取利息	有価証券利息
¥	¥	¥	¥	¥